

「4万人の盆踊り」常夏のマレーシアで日本の“夏”

常夏のマレーシアで、「日本の夏」を感じることができるイベントがあります。

クアラルンプール日本人会とクアラルンプール日本人学校、そして在マレーシア日本国大使館が中心となって企画運営する、盆踊り大会です。

今年で34回目を迎えた同イベントは、7月17日(土)、クアラルンプールから車で40分ほど西に走ったところにある、シャーアラーム市のスポーツ競技場を会場にして開催されました。

会場には在住日本人もさることながら、この日のために用意したであろう浴衣を着用し、嬉しそうに友達と見せ合う女の子達など、当地の若者も大勢集まり、熱気に溢れていました。会場中央に設置された櫓の上では、日本人の踊り手が東京音頭などのお手本を示し、来場者はそれらを見よう見まねで踊り、非常に迫力のある光景でした。

会場では、盆踊りに加え、日本人学校の生徒による太鼓パフォーマンスや、日本以外のアジア諸国の伝統芸能も披露されるたりするなど、様々なプログラムが行われていました。

日本の祭りに欠かせない屋台がここでも用意され、カキ氷、たこ焼き、焼きそばのほか、寿司、うどん、お菓子など、日本とは異なり一風変わったものがあつたものの、日本の味を十分に楽しめる店が出店していました。また、日本政府観光局(JNTO)シンガポール事務所により、日本の紅葉や雪をデザインしたパネルが設置され、それらを背景にして若者たちが代わる代わる写真に納まっていました。

このイベントは、日本とマレーシアとの友好交流の進展に大きく貢献するものであり、当日はマレーシア側からも多数来賓が参加し、最寄駅から会場までのシャトルバス運営費用をはじめ、多方面で協力を得たといいます。

関係者によると、当イベントは回を重ねる毎に来場者数が増加し、今年は4万人以上が来場したのではないかとのことです、すっかり地元に着定した恒例行事となっています。

日本から遠く離れたマレーシアで、日本の風物詩である盆踊りにこれだけ多くの地元の人達が集まっていることを大変嬉しく思いました。私自身も、日本の夏に思いを馳せながら、今後この盆踊り大会が益々多くの参加者を迎え、日本とマレーシア両国の交流親善が更に深まっていった欲しいものだと感じました。



常夏の国の「夏の風物詩」



屋台のラインナップも日本風



紅葉のパネルの前で記念撮影
(「日本」のはち巻きにも注目)